

Requirements Development Alliance

要求開発とマインド マップ



株式会社チェンジビジョン
平鍋健児

OPENTHOLOGY

www.openthology.org

目次

1. なぜ、「要求開発」と「マインドマップ」なのか？
2. マインドマップとは？
3. ReDA家具店のBSC戦略マップができるまで
4. 要求開発宣言のできるまで
5. まとめ

なぜ、「要求開発」と「マインドマップ」なのか？

- 要求開発の特徴

- 要求は柔らかい。ソフトウェアよりも。

- 定義しにくいプロセス
- 定義されているもの、過去の知見はプロキャビへ
- フォーマットさえも定式化しにくいものがある

- 合意形成プロセスである。

- 参加型意思決定(Participatory Decision-making)
- 多くの人数の頭の中を、見える化する必要性。
- ホワイトボード最高！だが、外に使えるものは？

マインドマップとは？

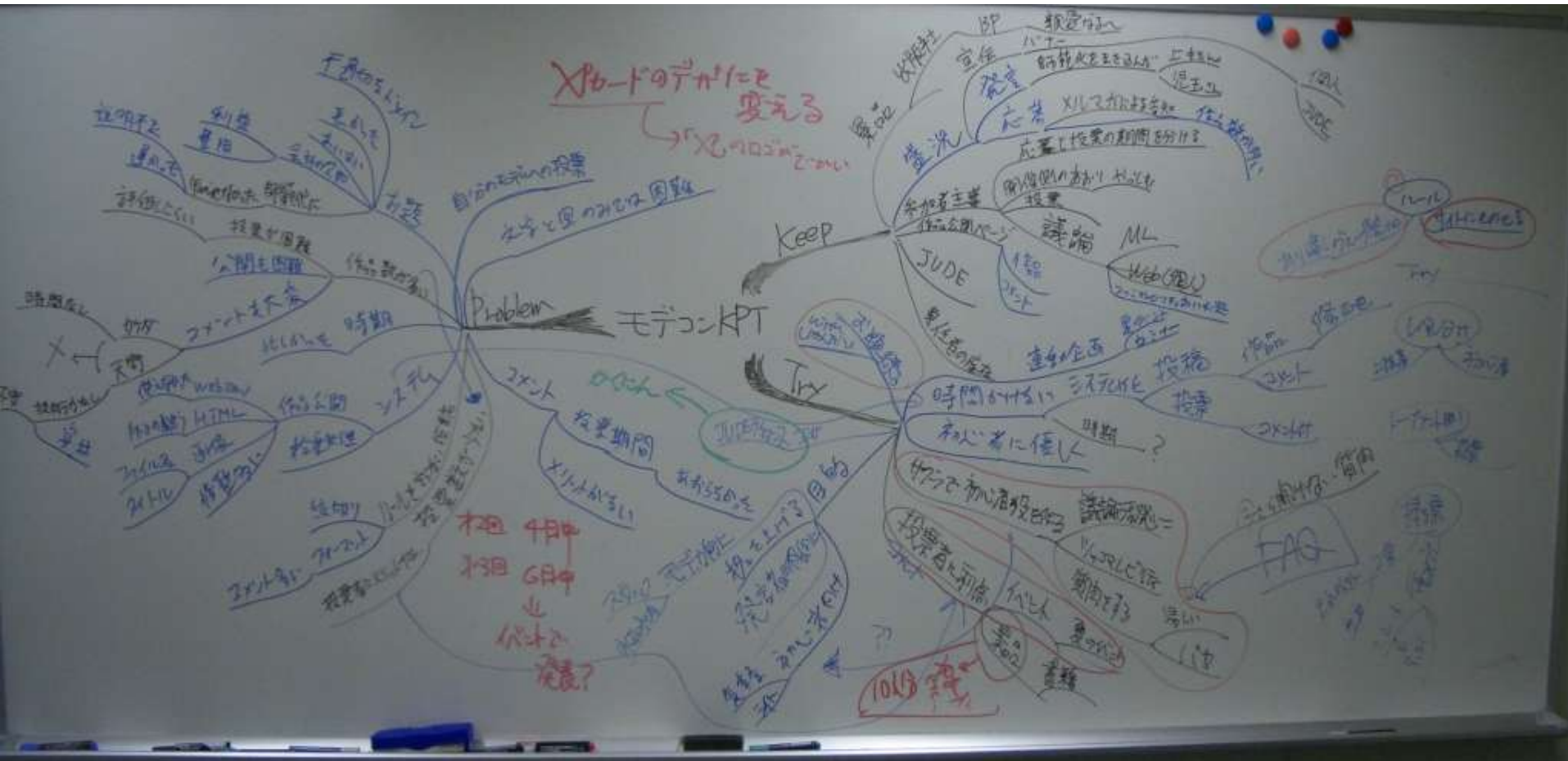
- 英国トニー・ブザンによる連想・記憶・発想を促す記法
- 絵と言葉（キーワード）によって思考プロセスを描く
- 考えやアイデアを放射状に描いていくことで、構造を明確に示すことができる
- 中心に置かれるテーマから、外に向かって枝が広がるような視覚的、印象的なメモが完成
- キーワードを周囲の空間に自由に配置していくことで、思考が発展



マインドマップは何に使えるの？

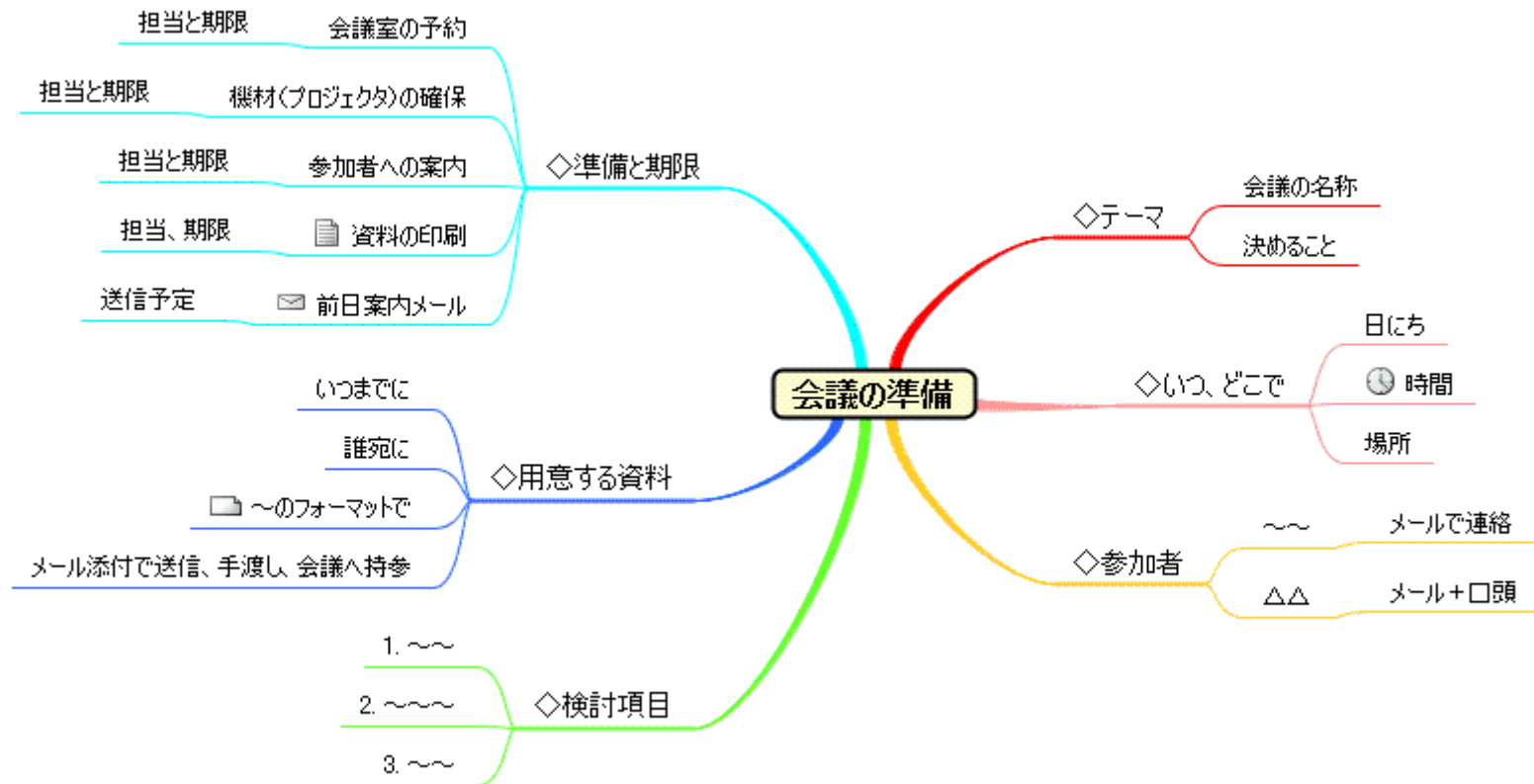
- マインドマップの用途
 - 議事録やインタビューの記録
 - プレゼンテーションの骨格作り
 - ブレインストーミング
 - 読書・講演・セミナーのまとめ
 - ユーザの要望聞き取り

ブレインストーミング

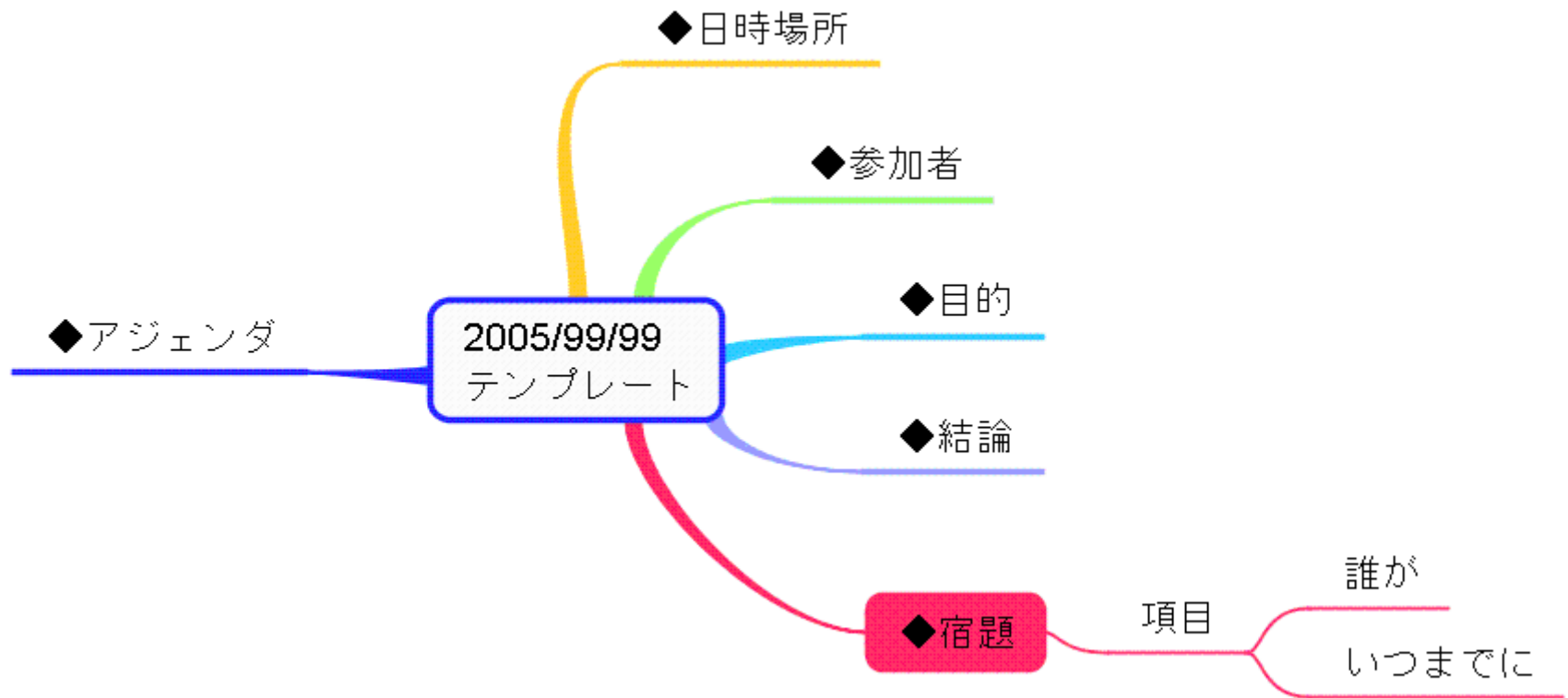


オブジェクト倶楽部モデリングコンテストの「ふりかえり」

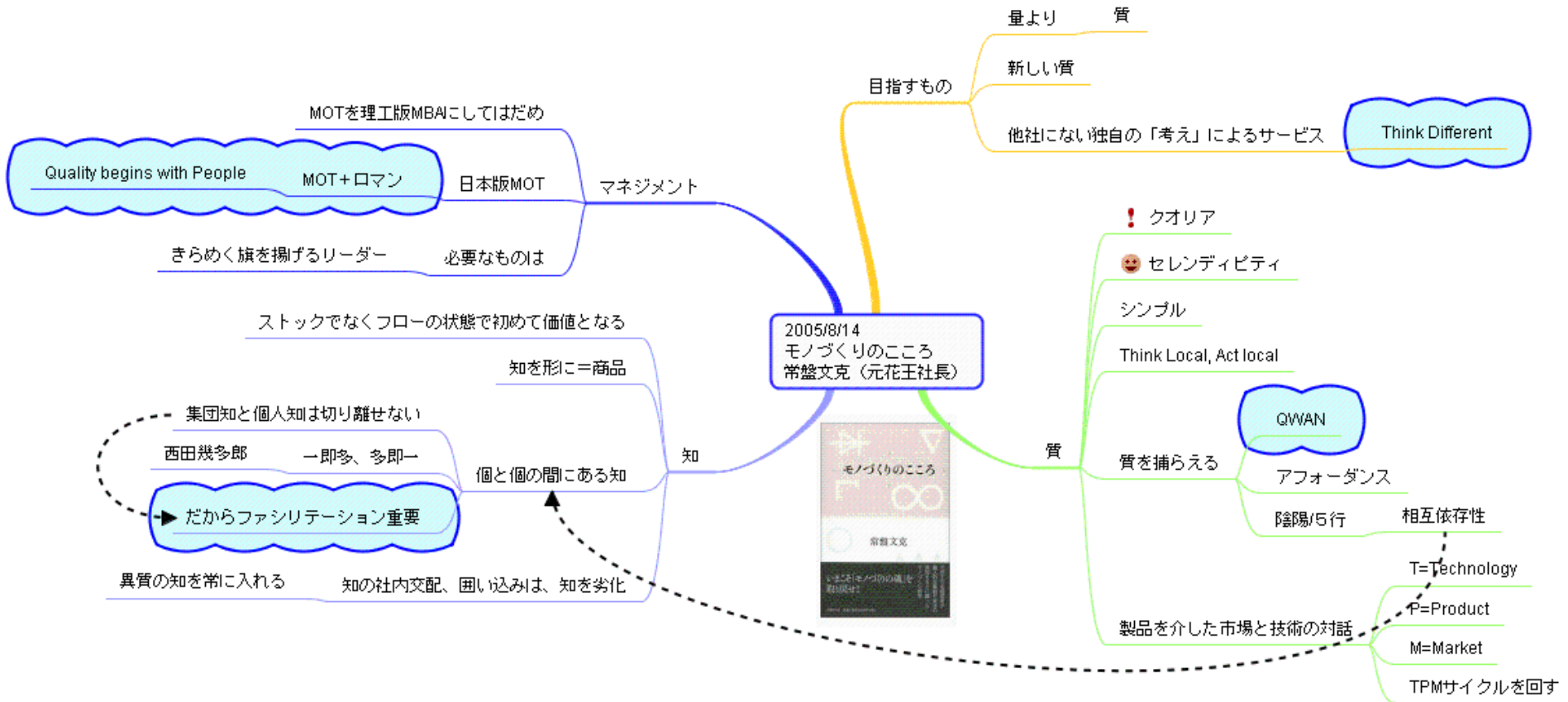
企画、アイデアのまとめの例(JUDE)



議事録テンプレート(JUDE)

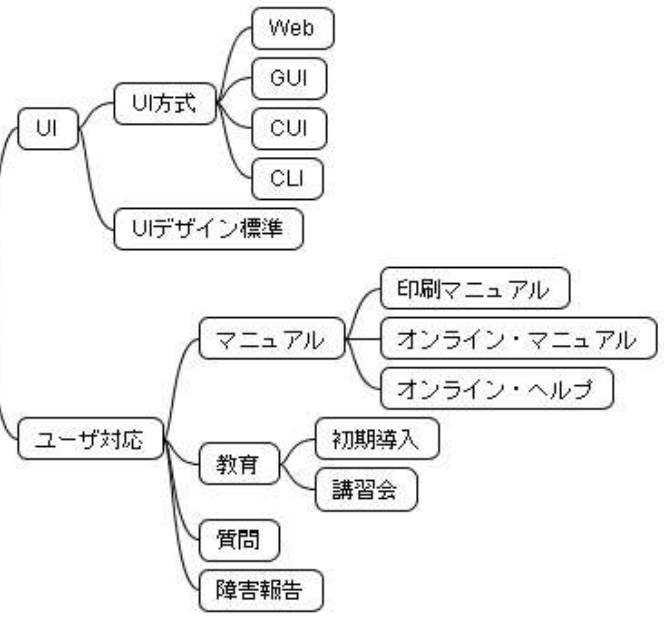


読書のまとめ(JUDE)

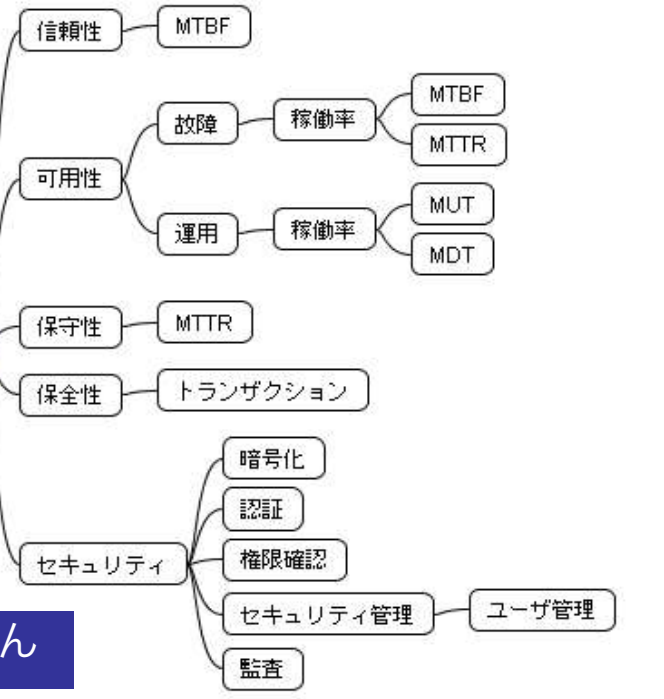


非機能要件

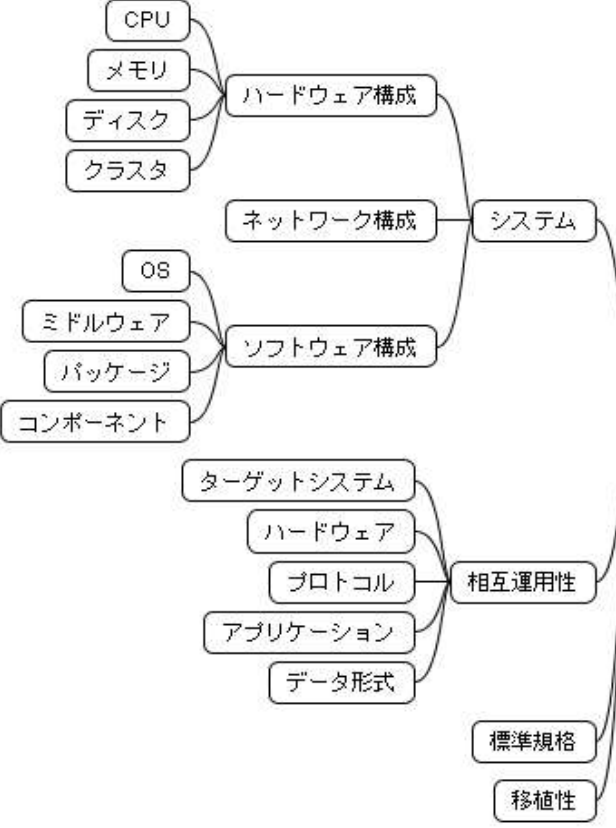
使用性(U)



信頼性(R)



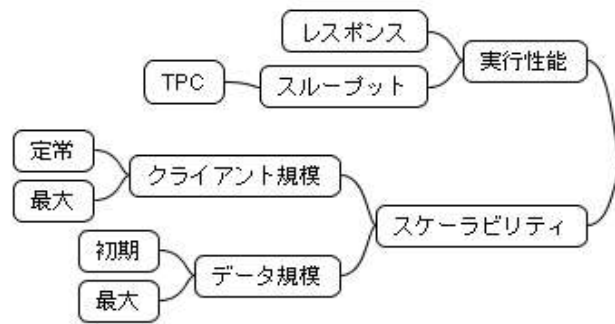
その他(+)



運用性(S)



性能(P)

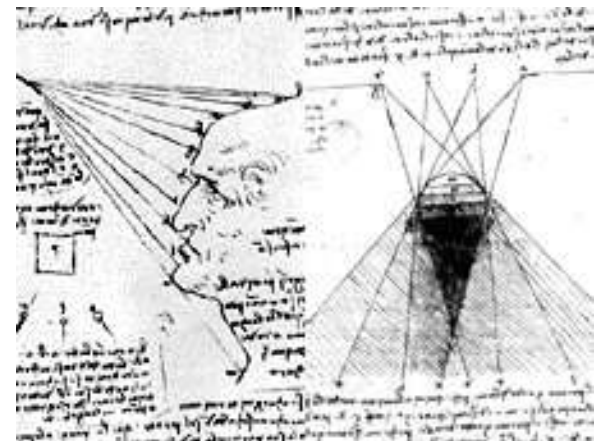


協力：浅海智晴さん

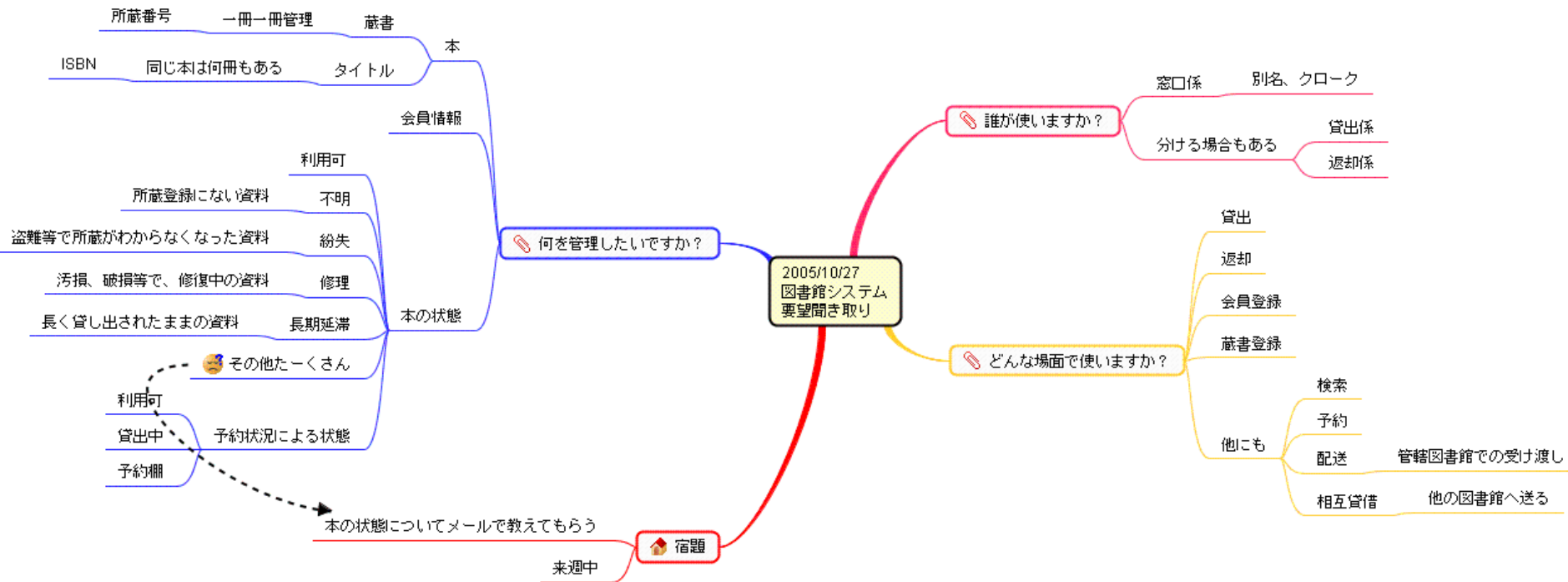
なぜマインドマップなのか？

- 要求開発でマインドマップを使う理由
 - 速記性（情報を簡潔なキーワードで）
 - 容易性（誰でも書ける）
 - 想起性（思い出せる）
 - 右脳（図形処理と直感的思考）と左脳（言語処理と論理的思考）両方が刺激され、記憶をよびさます
 - 一覧性（全体を俯瞰しながら、深掘できる）
- さらにツールを使うと
 - 検索性（瞬時にキーワード検索）
 - 試行錯誤性（あつめて、つなげて）

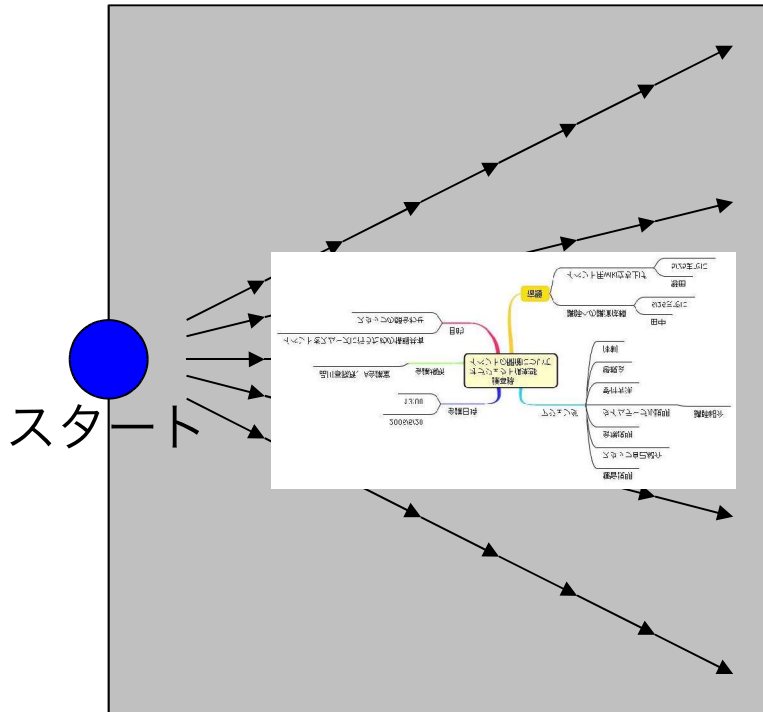
UMLは難しい！



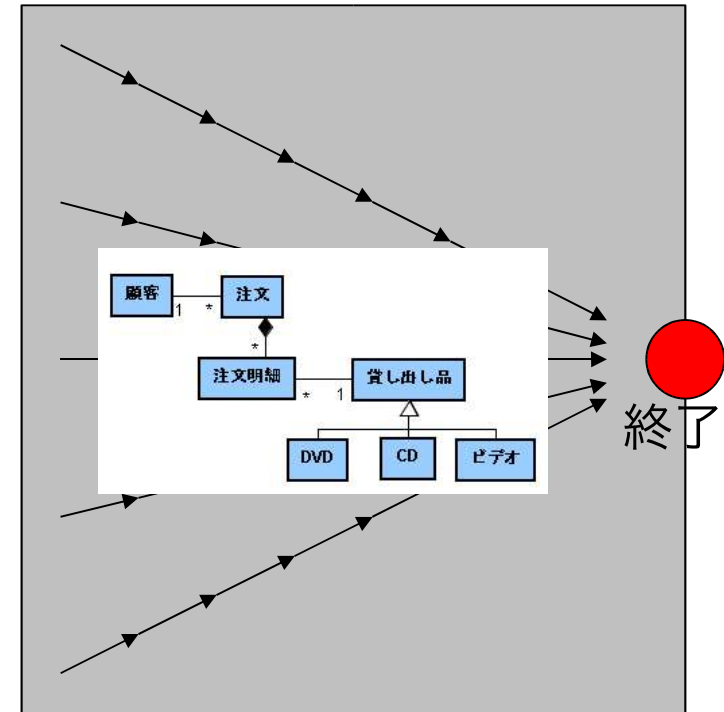
図書館システムの要求収集



要求収集、モデリング



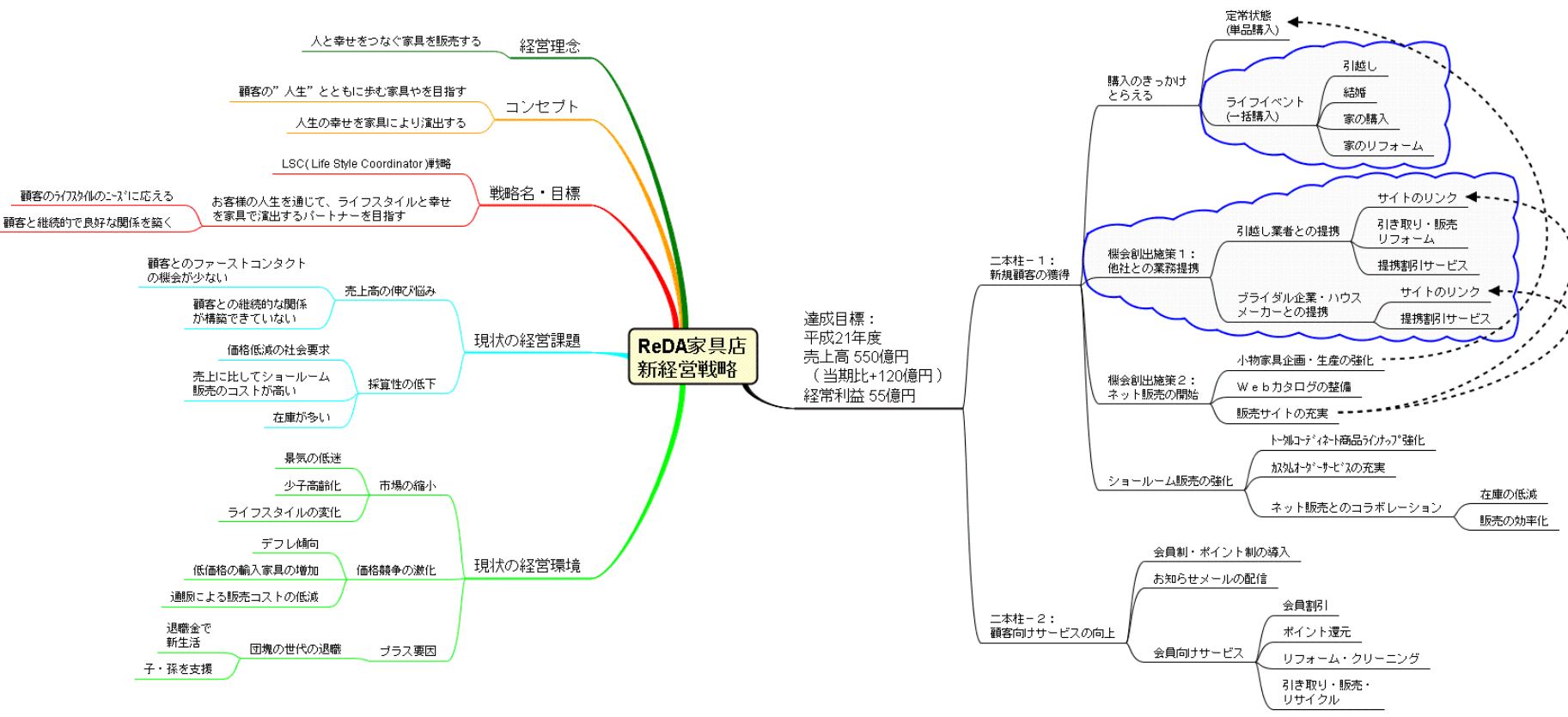
思考の発散・概念の収集
「要求ギャザリング」活動
(マインド・マップの得意分野)



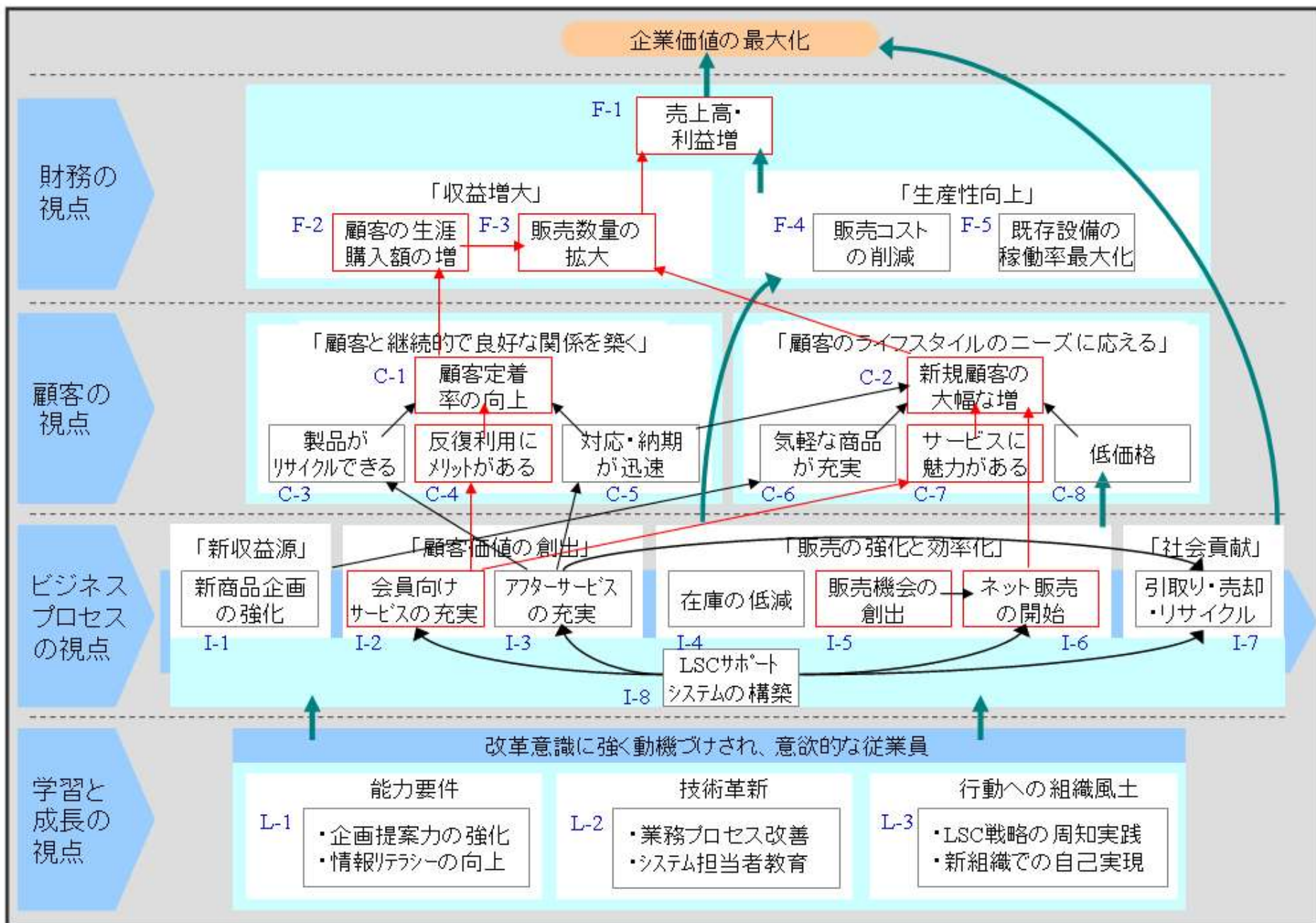
思考の収束・概念のモデル化
「要求モデリング」活動
(UMLの得意分野)

ReDA家具店のBSC戦略マップができるまで

- チームのキックオフ
- 前提条件の確認
- 目標のブレークダウン
- いったん発散させる
- グルーピングしてまとめる、つなげる
- BSC上にマッピング



BSC戦略マップ



要求開発宣言のできるまで

- すずかけ台にて
 - ホワイトボードにてキーワードの収集と議論
- 東京⇒福井の「しらさぎ」にて
 - マインドマップで輪郭をみつける
 - 日本語で清書⇒メール
- メーリングリストにて
 - 最後の調整

要件定義宣言

Manifesto for Requirement Development

宣言

実践的(者)

Definition Gathering

要求は存在しているのに(定義)するとの違い

既に

ビジネスの価値と高める活動

ビジネスの価値
ビジネスの効果

Why?

Why? 1. 40%以上

可視化
Visualization

not ITの価値

経営も
ITも
価値を
高める

可視化

可視化

可視化

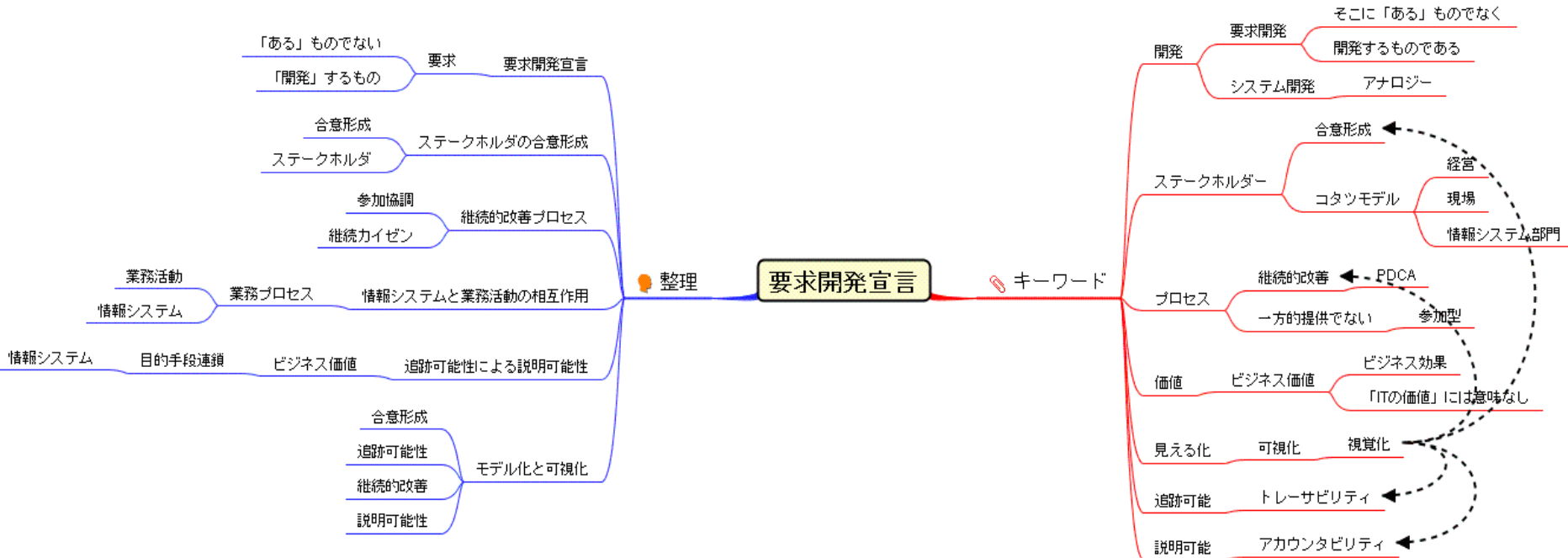
システム方向の望み

継続的改善 (PDCA?)

through

一方の提供
→ 両側作業

互恵



要求開発宣言

- 要求開発宣言
 - 情報システムに対する要求は、あらかじめ存在しているものではなく、ビジネス価値にもとづいて「開発」されるべきものである。
- 情報システムと業務活動の相互作用
 - 情報システムは、それ単体ではなく、人間の業務活動と相互作用する一体化した業務プロセスとしてデザインされ、全体でビジネス価値の向上を目的とするべきである。
- 追跡可能性による説明可能性
 - 情報システムの存在意義は、ビジネス価値の定義から要求開発を経てシステム開発にいたる目的・手段連鎖の追跡可能性によって説明可能である。
- ステークホルダの合意形成
 - ビジネス価値を満たす要求は、直接・間接にその価値に関わるステークホルダー間の合意形成を通じてのみ創り出される。
- 継続的改善プロセス
 - 要求の開発は、命令統制によらず参加協調による継続的改善プロセスを指向すべきである。
- モデル化と可視化
 - 「ビジネスをモデルとして可視化する」ということが、合意形成、追跡可能性、説明可能性、および継続的改善にとって、決定的に重要である。

From: Kenji HIRANABE <hiranabe@esm.co.jp>
Date: 2004年12月23日(木) 午後3時12分
Subject: 要求開発宣言

平鍋です。

みなさん、おつかれさまでした。いま、しらさぎ、に乗って福井に向かっています。

さて、私の宿題である「要求開発宣言」ですが、3時間かけて、こんな感じになりました。コメントリッチな、ワードファイルにしておりますので、ご意見たまわりたく思います。

#地の文が、Webにアップするもの、コメントが、意図とか文脈を
#表現しているつもりです。

3時間かけてもこんなものか————、とちょっと自分を恥じながら、実は、おー、なかなか核心ついているじゃん♪、といい気にもなっています。

以上です。

添付：

C:\Documents and Settings\hiranabe.CADDIES\デスクトップ\要求開発宣言.doc;

要求開発宣言(2)

- 次の3つの言語で書かれた宣言の特徴は？
- ホワイトボード
- 日本語
- マインドマップ
- UML

おまけ

- MindMap ⇒ Excelツリー
- Excelツリー ⇒ MindMap
- MindMap ⇒ リッチテキスト
- MindMap ⇒ テキスト ⇒ PowerPoint
 - ReDA家具店の例

本日のまとめ

- 要求開発は本質的に「難しい」
 - やわらかい（フォーマットが決まらない）
 - 合意形成、参加型意思決定
- マインドマップが有効
- マインドマップと他の図法(UML/フロー)の併用
- ツールの使い勝手重要

評価版はこちら↓

<http://jude.change-vision.com/>